



決算補足説明資料

2022年12月期 第3四半期

西本Wismettacホールディングス株式会社

2022年11月14日

- サマリー P. 2
- 2022年12月期 第3四半期決算 P. 3
- Wismettacグループについて P. 11

2022年12月期 第3四半期決算

- ◆ アジア食グローバル事業がグループ全体の業績を牽引し、前年同期比で大幅な増収増益を達成。
 - 北米を中心に、需要回復に伴う売上高の増加や適切な価格調整等によって好調な業績を維持。
 - 円安による為替換算の影響が、売上高及び利益を更に押し上げ。
- ◆ 国内市場は、急激な円安の進行や物流費用の増加等による仕入原価高騰の影響を大きく受け、輸入青果販売を行う農水産商社事業を中心に、前年同期比で減益。

前年同期	売上高	1,553億円	営業利益	50億円	経常利益	49億円	四半期純利益	32億円*
当期	売上高	2,023億円	営業利益	83億円	経常利益	86億円	四半期純利益	56億円*

(*) 親会社株主に帰属する四半期純利益

通期連結業績予想・期末配当予想 [変更なし]

- ◆ 通期連結業績予想、期末配当予想ともに、前回公表値(第2四半期決算公表時)から変更なし。

通期連結業績予想

2021/12期(実績)	売上高	2,132億円	営業利益	73億円	経常利益	72億円	当期純利益	50億円*
2022/12期(予想)	売上高	2,650億円	営業利益	105億円	経常利益	105億円	当期純利益	70億円*

(*) 親会社株主に帰属する当期純利益

配当予想

2021/12期	中間	35円	期末	70円	合計	105円
2022/12期	中間	70円	期末	75円(予想)	合計	145円(予想)

- 将来の事業展開と財務体質強化のため内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続して実施。
- 配当性向を重要な指標とし、通期で30%程度の連結配当性向を目安とする。

2022年12月期 第3四半期決算



◆ アジア食グローバル事業がグループ全体の業績を牽引、前年同期比で大幅な増収・増益を達成。

- ◆ 当第3四半期は、世界各国でインフレ進行やエネルギーコストの上昇等によって費用が増加、上半期と比べて利益率は低下傾向がみられるものの、適切な価格調整を図ることで利益を確保。
- ◆ 海外における需要の回復基調を反映した販売状況に加えて、円安による為替換算の影響が売上高及び利益を押し上げ、売上高は前年同期比+30.2%の増収、+75.6%の四半期純利益増を達成。

(単位：億円)

		2021年12月期		2022年12月期		前年同期比増減 (累計比較)	
		第3四半期実績		第3四半期実績			
			(7-9月)		(7-9月)		
業 績	売上高	1,553	554	2,023	715	+469	+30.2%
	売上総利益	292	104	406	139	+114	+39.2%
	営業利益 (政策経費除く)	69	23	104	30	+34	+49.9%
	営業利益又は損失 (△)	50	17	83	22	+32	+64.9%
	経常利益又は損失(△)	49	16	86	22	+37	+74.7%
	親会社株主に帰属する四半期純利益 又は損失 (△)	32	6	56	11	+24	+75.6%
円ドルレート (期中平均)		108.50円		128.05円		+19.55円	
1株当たり四半期純利益又は損失 (△)		225.30円		395.70円		+75.6%	

- ◆ アジア食グローバル事業は、前年同期比で大幅な増収・増益。
- ◆ 農水産商社事業・国内その他事業は、前年同期比で増収・減益。

アジア食グローバル事業（以下、「AFB」）

- ◆ 需要が回復する中での好調な販売状況、コスト上昇を反映した価格調整の実施等によって、北米を中心に前年同期比で大幅増収。また、円安による為替換算の影響が、売上高及び利益を押し上げた。
 - 北米地域の売上高は、前年同期比+37.0%（コロナ禍前である2019年度の同期比+40.5%）。
 - 北米以外の地域の売上高は、前年同期比+32.1%。取引エリア拡大やリテイル向け販路の開拓等、間口を広げる取組みを推進。
- ◆ 第2四半期の後半以降、インフレの進行やエネルギーコスト等の費用増加が、一部地域での販売状況や利益率に影響。

農水産商社事業

- ◆ セグメント全体では、シンガポール大手青果卸売業者の連結子会社化等が寄与し、前年同期比+14.2%の増収。
- ◆ 国内市場では、円安の進行等によって輸入青果の仕入原価が高騰。価格転嫁による利益確保に努めるも、全般的な物価高で市場全体の需要も低迷する中、価格競争力の低下や量販店等における取扱数量の減少、コンテナ船延着に起因する品質劣化の発生等が影響し、前年同期比で大幅減益。

（単位：億円）

事業セグメント		2021年12月期		2022年12月期		前年同期比 (累計比較)	
		第3四半期実績		第3四半期実績			
			(7-9月)		(7-9月)		
AFB	売上	1,163	432	1,577	573	+414	+35.6%
	営業利益又は損失(△)	56	22	96	31	+40	+70.8%
農水産商社	売上	368	115	420	134	+52	+14.2%
	営業利益又は損失(△)	▲ 0	▲ 2	▲ 6	▲ 5	▲ 5	-
その他	売上	21	6	24	7	+2	+12.1%
	営業利益又は損失(△)	▲ 0	▲ 0	▲ 2	▲ 1	▲ 1	-
調整項目	売上	-	-	-	-	-	-
	営業利益又は損失(△)	▲ 4	▲ 2	▲ 4	▲ 2	+0	-
合計	売上	1,553	554	2,023	715	+469	+30.2%
	営業利益又は損失(△)	50	17	83	22	+32	+64.9%

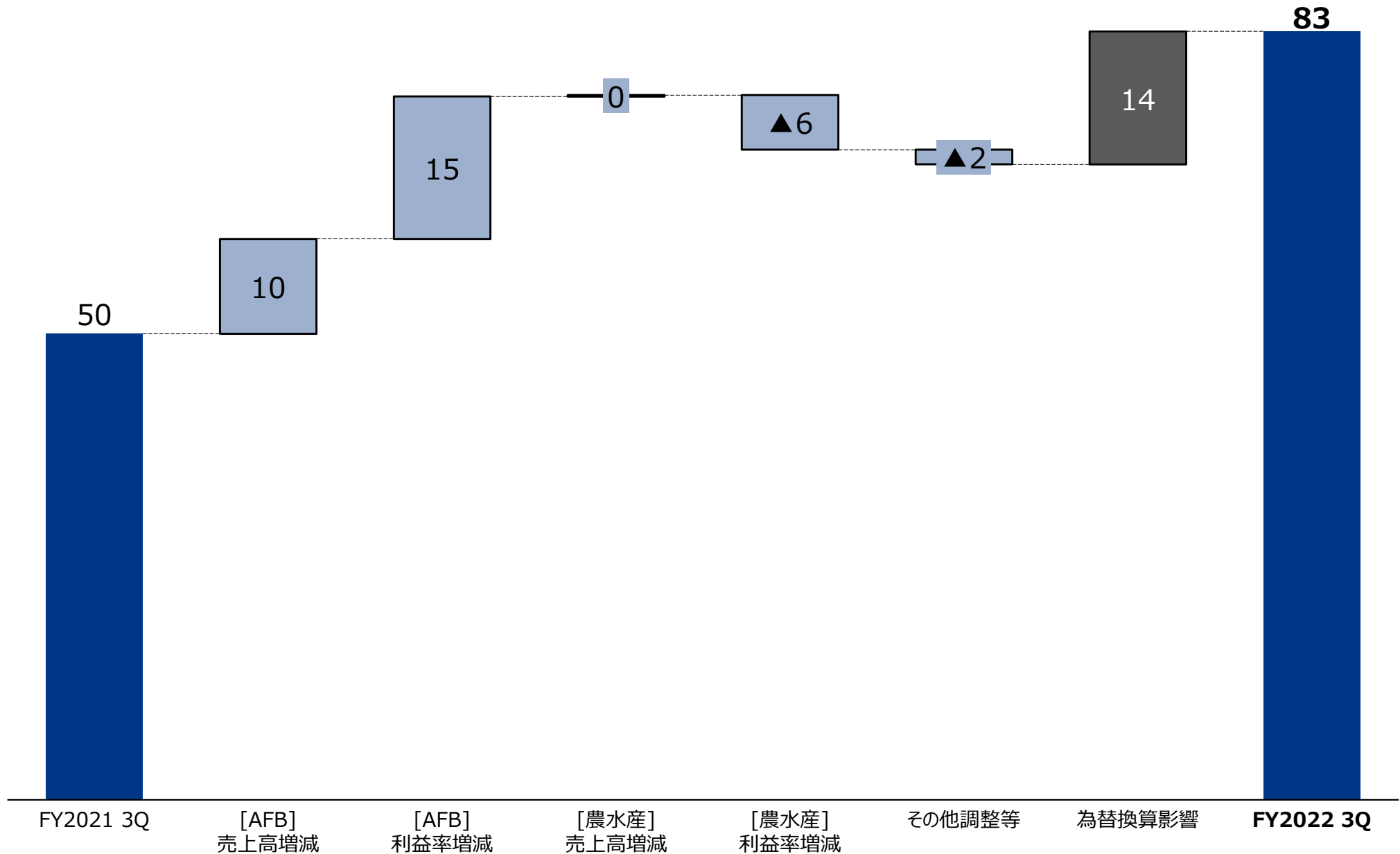
- ◆ 米国の連結子会社における新リース基準の適用に伴い、リース資産・リース債務ともに増加したこと、及び円安の影響等により、資産・負債・純資産が前期末比で増加。
- ◆ 棚卸資産は、不安定な物流状況下での安定供給を目的とした在庫積み増しに加え、仕入原価の上昇や円安も影響し、前期末比154億円の増加(第2四半期末比は24億円の減少)。
- ◆ 第3四半期において、長期借入金(170億円、期間7～10年)を実行。

(単位：億円)

		2021年12月末	2022年9月末	増減額/率	主要な増減項目
資産合計	流動資産	1,247	1,616	+369	現金及び預金+132, 売上債権+69, 棚卸資産+154
	固定資産	170	309	+138	リース資産(純額)+112
		1,417	1,925	+508	
負債合計	流動負債	366	397	+30	リース債務+22
	固定負債	452	762	+310	長期借入金+217, リース債務+95
		819	1,160	+341	
純資産合計		598	765	+166	為替換算調整勘定+128
負債・純資産合計		1,417	1,925	+508	
円ドルレート (期末レート)		115.02円	144.81円	+29.79円	
自己資本比率		41.9%	39.5%	▲2.4pt	
流動比率		339.9%	406.3%	+66.3pt	

営業利益 主な増減要因 (前年同期比)

単位：億円



◆ 既存事業の基盤強化、新しいビジネスモデルへの進化に向けた取組み・投資を継続的に実施。

	施策	金額(経費含む、億円)			狙い
		'21年 実績	'22年 計画	'22年 3Q実績	
1 事業 領域の拡大	◆ 食・医・エコ・新しいライフスタイル・Food informaticsが融合する部分での新事業の創出	5	8	6	◆ 事業ポートフォリオの多角化
2 地域間連携 の強化	◆ 海外地域マネジメントチームの組成・強化 ◆ 欧州、中国における商品開発及びメインストリーム向け販路開拓	12	15	9	◆ 各地域の組織経営力強化 ◆ メインストリーム等の販路強化、取引深耕に向けた事業戦略の構築
3 既存事業の 収益力強化	◆ 商品開発部門の充実	1	2	1	◆ PB化の一層の推進 ◆ 健康志向商品等の開発
	◆ SCM・ITインフラ投資	0	5	1	◆ SCMオペレーションの精度向上
	◆ 組織の活性化・スリム化(北米等)と報酬制度改革	5	1	1	◆ より顧客志向の強い組織の構築 ◆ 会社、個人業績に応じた報酬 ◆ 部門間を超えた社内連携の強化
4 既存事業から 派生した新規 事業の展開	◆ 国内農産品の海外輸出の仕組みの構築	2	3	2	◆ 海外市場の成長の取り込み
	◆ 外食向け新サービスの開発(ニューノーマルの食生活)	2	2	1	◆ ニューノーマルに対応した外食業態の取り込み
	計	27	36	21	

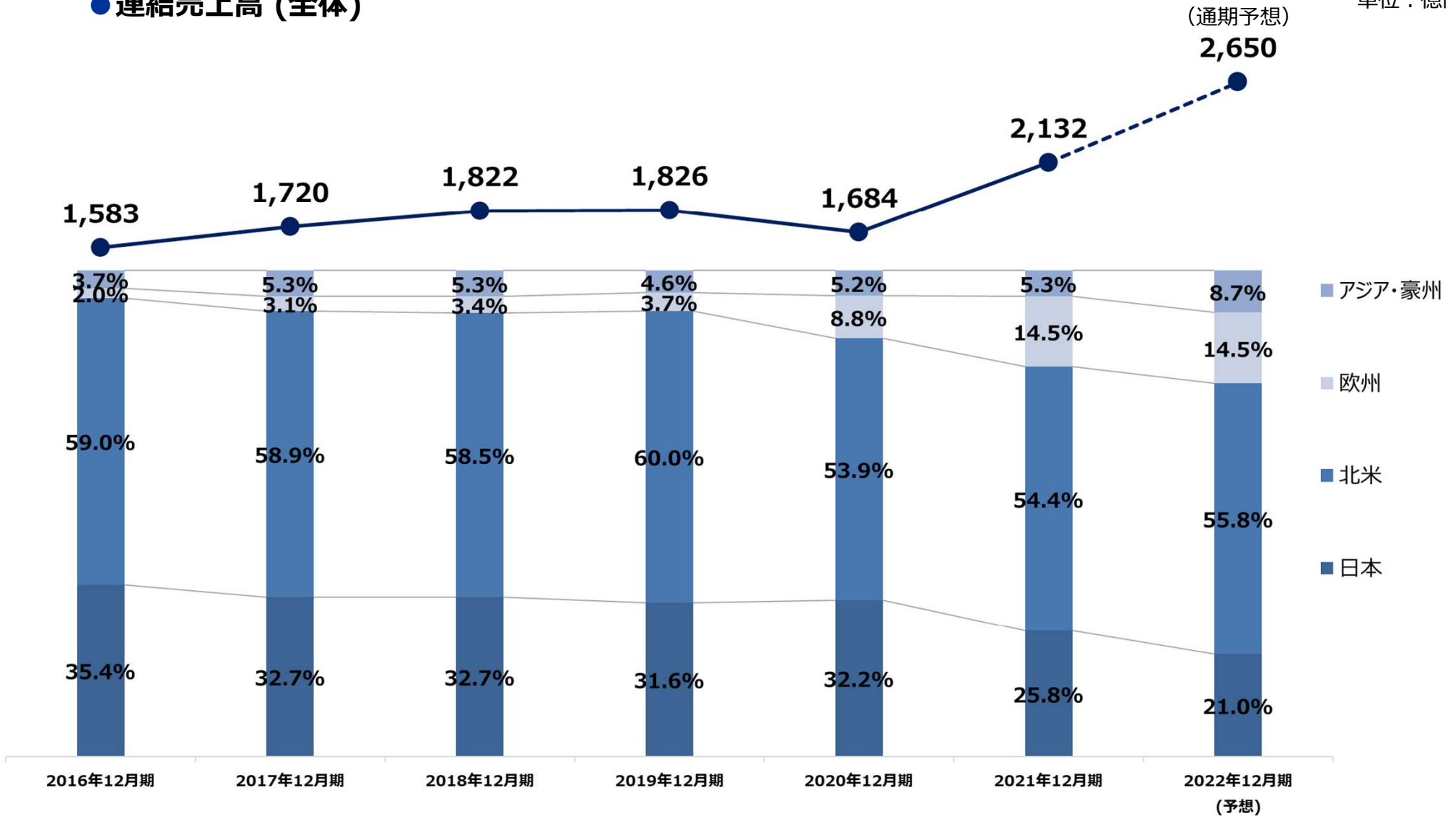
◆ 農水産商社事業は厳しい業況が続くが、グループ全体では売上高・利益ともに通期予想の達成を目指す。

単位：億円		FY2020 実績	FY2021 実績	FY2022 予想(8月修正)	3Q累計	足元の状況
全社	売上	1,684	2,132	2,650	2,023	既存のAFB事業を核として、通期業績予想達成を目指す。
	営利	19	73	105	83	
既存	売上	1,657	2,073	2,510	1,928	インフレ進行や地政学リスク等、不確実性が高まる環境下ながら、来期に向けた収益の積上げや間口開拓、体制強化を図る。
	営利	39	105	130	98	
AFB	売上	1,163	1,598	2,013	1,556	北米は、利益率の低下傾向はみられるも好調な販売状況を維持。欧州は、消費者動向に対するインフレ・エネルギーコスト高騰等の影響を注視。
	営利	30	105	130	102	
農水産	売上	458	439	460	348	物流混乱や円安等による費用増加、物価上昇に伴う消費者動向の影響等を受け、国内向けは販売数量・利益率が低迷。
	営利	8	▲1	0	▲4	
国内BtoC	売上	36	37	37	24	円安等による仕入原価高騰で厳しい業況は続くが、新たなチャネル開拓・取扱商材の拡大に取り組む。
	営利	1	1	0	▲0	
新規	売上	27	60	140	95	事業環境に応じて投資計画やビジネスモデルの一部見直しを行いながら、中長期的な成長を目指した取組みを推進。
	営利	▲20	▲32	▲25	▲15	
(期中平均USD為替レート)		(106.82)	(109.80)	(127.00)	(128.05)	

(参考) 地域別売上構成比率

* 外部向け売上高
単位：億円

● 連結売上高 (全体)



SSP (独・2020/2)、 C3C (仏・2020/7) 連結子会社化	Sco-Fro Group (英国・2021/2) 連結子会社化	BCM (シンガポール・ 2022/1) 連結子会社化
---	--	-----------------------------------

Wismettacグループについて



- ◆「地球それ自体」と「Globalism」をイメージした2つの球体
 - 革新の「赤」+自然の「緑」
 - 「より健康で豊かな食生活へのあくなき挑戦の意思」
- ◆ 社名の「W」「M」「C」をモチーフとして造形化

- 【Wisdom】 … (西洋智)
- 【Metta】 … (東洋智)
(パーリ語：優しさ/思いやり)
- 【Creativity】 … (価値の創造力)

Purpose

食産業の企業としての社会への貢献

**食の安全・安心を守り、
食とテクノロジーで世界をつなぎ、
世界の人々の生活をより豊かに、
より幸せに（Well-being）**

Mission

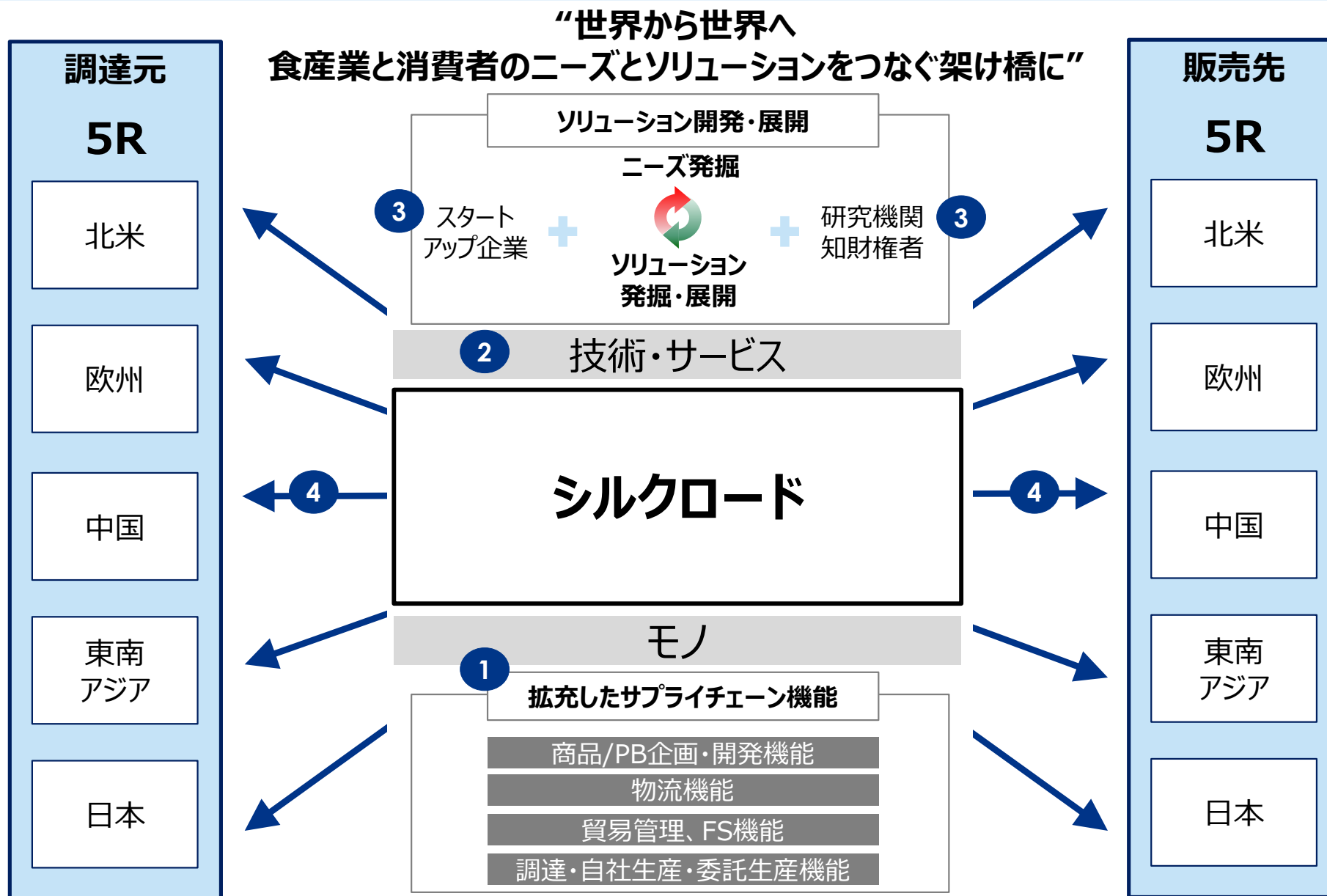
当社の目指す事業のあり方

**世界から世界へ
食産業と消費者のニーズとソリューションをつなぐ
架け橋に**

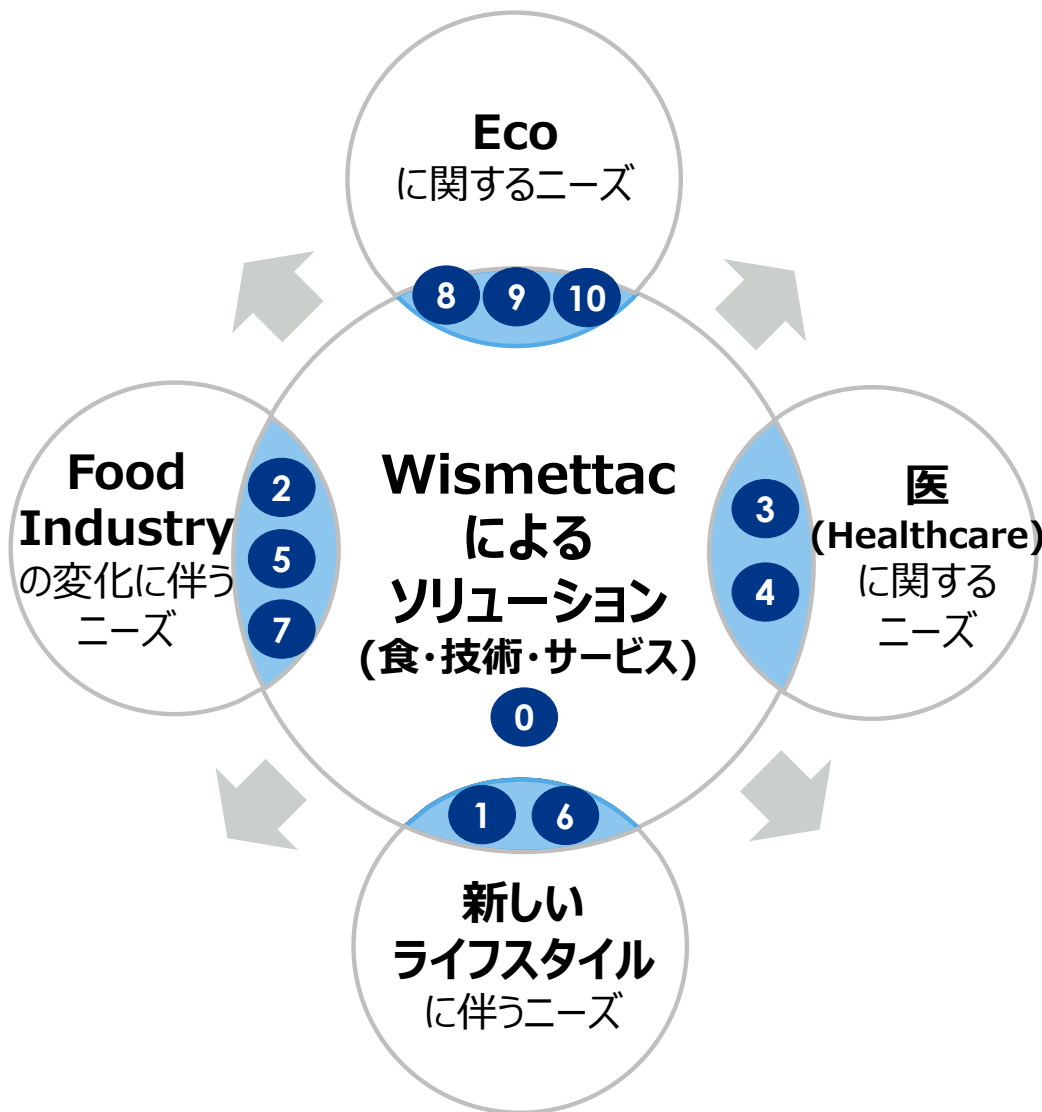
**そのために、クロスボーダーの食のサプライチェーンを
「食のシルクロード」に進化させる**

日本食・青果・輸入加工食品の提供 → ソリューション(食・技術・サービス)の提供
日本から世界へ、世界から日本へ → 世界から世界へ、双方向での展開

- ① これまで培ってきたサプライチェーン機能をさらに強化するとともに、② 世界5地域(5R)での食産業とのネットワークを通じて発掘したニーズに対する「サービス・技術」ソリューションを開発、③ 社外の研究機関やスタートアップ企業の当社シルクロード活用を促進し、④ 当社のモノ・サービスと共に、5Rに展開



ニーズ発掘からソリューションの発掘・開発につなげ、継続的に事業を生み出すための仕組みを構築する。
 ニーズ変容の源となるマクロトレンドは、事業化の可能性有無を定期的に検証しながら、柔軟に見直す。



事業化検討中の案件

1	Deskilled商品開発 (Ready To Eat商品等)	5R共通
2	クロスボーダーECを活用した 輸出支援事業	中・日間
3	ヘルスコンシャス食品事業 (一部、既存国内事業での取組み含む)	中・日
4	病疾患・高齢者向け食のQOL向上事業	中・日
5	BtoB向け食品・食材購入 ECプラットフォーム事業	日
6	外食産業の中食対応支援事業	日・米
7	農作物の輸出支援プラットフォーム事業 (農水産事業での取組み)	日・東南 アジア
8	陸上養殖水産品の販売事業 (既存AFB事業での取組み)	欧
9	代替肉・魚肉の販売事業 (既存AFB事業での取組み)	5R共通
10	省資源型の栽培技術支援事業	日・豪・米

事業シーズ・Solution発掘を支援

0	Startup・大学・研究機関・VCとの協業	日・欧・中
---	------------------------	-------

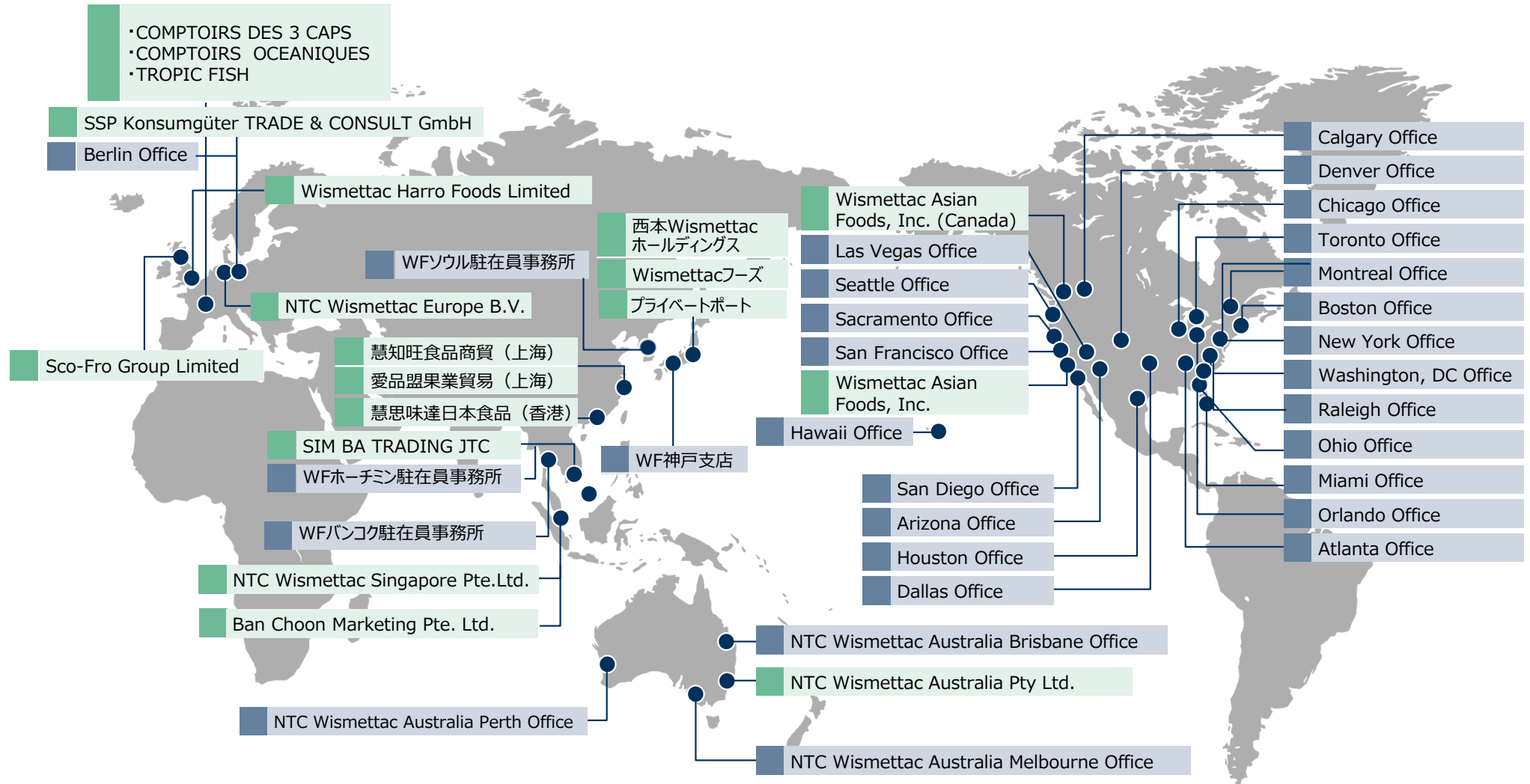
アジア食グローバル事業は、サプライチェーンの正常化に伴う粗利率の低下を増収でカバーし、緩やかな増益基調を維持。2024年には売上3,045億円、営業利益100億円を目指す

計画前提		円ドル為替は、1\$=120円を想定				コメント
単位：億円		FY2021 実績	FY2022	FY2023	FY2024	
全社	売上	2,132	2,540	2,792	3,045	既存・新規ともに売上は伸長。中長期的な成長に向けた体制強化及び投資は継続
	営利	73	90	95	100	
既存	売上	2,073	2,400	2,642	2,875	費用増加等による収益低減を売上増加で補う一方、将来の事業基盤強化に向けた投資は継続
	営利	105	116	122	125	
AFB	売上	1,598	1,910	2,100	2,300	需給バランスの正常化によって供給量が増え、粗利率は緩やかな下落を想定も、増収によってカバー
	営利	105	116	115	116	
農水産	売上	439	450	500	530	サプライチェーンの混乱による粗利低下も回復するとともに、オペレーションの効率化により収益性を高める
	営利	▲1	0	6	8	
国内BtoC	売上	37	40	42	45	取扱商材の拡大、オンライン受発注システムの導入等により売上増加を目指す
	営利	1	0	1	1	
新規	売上	60	140	150	170	新しいソリューション開発に向けた投資を継続
	営利	▲32	▲26	▲27	▲25	
	(USD為替レート)	(109.80)	(120.00)	(120.00)	(120.00)	

明治45年（1912年）に創業後、世界市場に食材・食品を供給するグローバル企業へと成長

社名	西本Wismettac (ウイズメタック) ホールディングス株式会社	
本社	東京都中央区日本橋室町三丁目2番1号 日本橋室町三井タワー15階	
創業	1912年5月	当社グループは、2022年に創業110周年を迎えました
代表者	代表取締役会長兼社長 CEO 洲崎 良朗	
従業員数	1,813名（うちアジア食グローバル事業：1,507人） [2021年12月末時点]	
事業内容	<p>◆アジア食品の開発及びグローバルでの販売</p> <p>◆青果物全般(フルーツ、野菜、その他加工品)の輸入販売、食品メーカー並びに 外食産業向けの食材の供給</p>	
子会社、関連会社	子会社23社、関連会社1社 [2022年9月末時点]	
拠点所在地	世界44か所（うち北米拠点：24か所） 日本・米国・カナダ・シンガポール・オーストラリア・オランダ・英国・ドイツ・フランス・中国・ 香港・タイ・ベトナム・韓国	
連結売上高	2,132億円 [2021年12月期]	* 海外売上比率74.2%
連結経常利益	72億円 [2021年12月期]	
自己資本比率	41.9% [2021年12月期]	

- ◆ 当社グループは北米、欧州、豪州、アジアにおいて44拠点を有し、グローバルに事業を展開
- ◆ 北米（アメリカ・カナダ）は24拠点を有し、売上の過半以上を占める



図表中の“WF”は“Wismettacフーズ”の略

注意事項

本資料は、西本Wismettacホールディングス株式会社及び関係会社（以下当社）の財務情報、経営情報等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。

本資料に掲載されている当社の計画や戦略、業績の見通し等は、将来の予測等に関する情報を含む場合があります。これらの情報は現在入手可能な情報に基づくものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実な要素を含んでいます。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があり、当社はこれらの情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。

資料の作成には、当社は細心の注意を払っておりますが、以下の点についてはあらかじめご了承ください。

- 掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、当社は事由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 日本語版と英語版の両方が公表されている資料について、日本語版と英語版に相違がある場合は日本語版を正とみなすものとし、翻訳による誤解から生じたいかなる損害についても責任を負いません。

本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定はご自身のご判断で行うようお願いいたします。

【お問合せ先】

西本Wismettacホールディングス株式会社
経営企画部

TEL：03-6870-2015

